



「道の駅」を拠点とした中継輸送実証実験

- 「北海道開発局及びヤマト運輸株式会社の北海道の生産空間の維持・発展に資する連携協力協定」に基づき、北海道地方部の生産空間の暮らしと産業を守るために不可欠な物流を維持するため、道の駅を拠点としたトラック中継拠点の実証実験を実施
- 幹線道路沿いに立地し、休憩機能等を有する「道の駅」の特性を活かし、物流事業者同士が連携して中継輸送を実施することで、双方のドライバーの拘束時間を短縮し、各物流事業者の強みを活かして生産空間における物流サービスの維持に貢献

物流の現状・課題

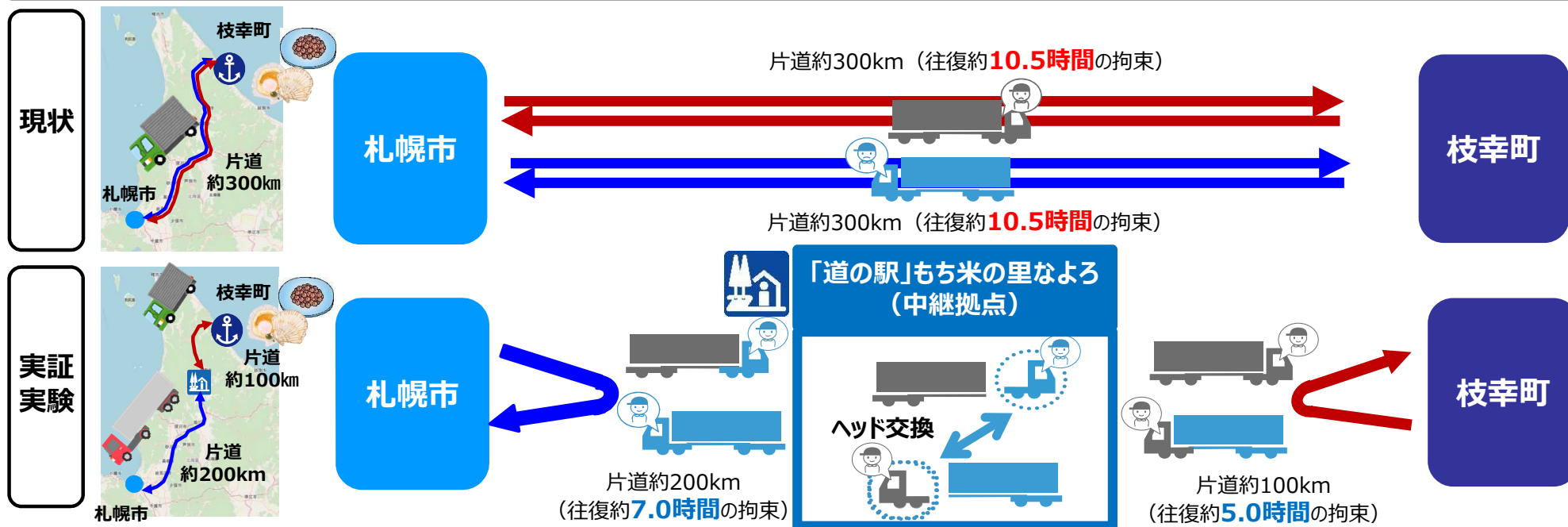
- ・トラックドライバーの高齢化や担い手不足が進んでおり、更に時間外労働規制の適用に向けた取組みの着実な実施が必要
- ・特に、北海道は広域分散型地域構造で、トラックドライバーの長時間労働が負担となり、物流の維持の大きな課題

実験内容

「道の駅」もち米の里☆なよろをモデルに※、「道の駅」を拠点とした中継輸送の実証実験を行い、そのニーズや効果、必要な駐車スペース等の課題を検証し、道北地域における「道の駅」の中継輸送拠点化の可能性を検討

※道北と道央の間に位置すること、駐車スペースが大きいこと等から選定

実験イメージ（枝幸町～札幌市間の冷凍ホタテ・冷凍イクラ輸送の場合）



連携による取組体制



旭川開発建設部

実験・調査計画の検討、実験スペースの確保、とりまとめ等



ヤマト運輸株式会社

実験に参加する物流事業者の調整を含む中継輸送、効果検証への協力等